

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

#### **「学びと支援の新たな結合による第三の教育」推進**

生徒の well-being を実現する学校  
大阪の地域社会を支え地域社会に参画する原動力となる市民を育成する。

### 2 中期的目標

本校の学校教育総体が学習指導面、生徒支援面などあらゆる点で、2030年をゴールとする国連で確認されたSDGs（持続可能な開発計画のゴール）をめざす取組みと合致する。今年度からはエンパワメントスクール7か年の経験を総括し、更に「生徒の Well-being を実現する学校」をめざして、以下の3点を意識したカリキュラムを作成し実行する。

- ① Inclusion（インクルージョン）を実現する
- ② Competency（コンピテンシー）を育てる。
- ③ 社会参画を実現する Democracy（デモクラシー）を育てる。

令和5年度をスタートとする。「ともに学び・ともに育つ」多様な教育実践モデル校として、他の学校のモデルとなるような取組だけにとどまらず、オンリーワンの学校として魅力あるカリキュラムの実現に努める。

（これ以後成果指標としての目標数値については、4人に3人の割合程度の肯定・称賛・満足が当面の維持目標と考えている）＝本校の評価基準

#### **1. 学習力をエンパワーする** [SDGs 質の高い教育をみんなに]

学習力向上PTを中心に教科横断型の研修グループを形成し、全国の先進的な取組みに学ぶ研修を積極的に行う。また、西成区を中心に近隣の義務制学校に指導と支援の方法を学ぶ。

- 授業力向上という視点から生徒の「学習力」向上の視点に切り替える。
- 多面的な評価方法の開発で生徒の学習意欲を伸ばす。
- 生徒の学習力を伸ばすため、ICTを活用した教育活動の「ハードル」を下げる



##### 【評価指標】

- ①学習到達度を測る教育産業のテストの活用による実態把握
- ②学校教育自己診断における「工夫された授業」「わかりやすい授業」への肯定感(できるだけ現状を維持することを目的とするも、およそ75%の肯定率で目標達成と考えている。)  
工夫された授業への肯定感 (R1 80.7%, R2 84.1%, R3 89.7%) : R6目標→[75%以上維持]  
分かりやすい授業への肯定感 (R1 83.1%, R2 88.3%, R3 90.2%) : R6目標→[75%以上維持]
- ③生徒授業アンケートでの授業に対する肯定感(全体平均値の向上) (R1 3.40, R2 3.49, R3 3.48)

#### **2. キャリア教育でエンパワーする** [SDGs 働きがいも、経済成長も]

- 挫折や失敗からリカバーするチカラを育成する。
- 企業家教育（アントレプレナーシップ教育）を実施する。
- アルバイト支援（経営推進費）を継続し、2年次のインターンシップを通して、段階的・実践的な職業教育を実施する。
- 社会人基礎力の養成を行う。（1年次からの人間関係作りなどを含めた）
- 定着支援にも重点をおく。



##### 【評価指標】

- ①学校教育自己診断アンケート（生徒）における「成長実感」（R1 83.1%→R2 78.4%→R3 83.0%） R6目標 75%維持
- ②進路指導に対する自己診断アンケートでの満足度（R1 77%→R2 86% →R3 88, 6%） R6目標 75%以上維持
- ③地元への就職定着を促進しながら、就職内定100%を維持する。（令和3年度現在11年連続100%達成）
- ④就労1年以内の離職率をR6には10%以内にする。R1年度 卒業生離職率16% R2年度 18.6%  
※離職率は2年前の卒業生の状況を反映する）
- ⑤キャリア教育の原点は「学びなおし」と自信の回復 進級率卒業率を向上させる。R6 卒業生数200名（213名入学）卒業率94%をめざす。（令和3年度卒業学年の3か年 2年への進級率 86.2%、卒業率79.7%）。
- ⑥R4 生徒を勇気づけるキャリアステージ計画（地域協働キャリアセンター構想）（R4 現在1年からの進級率85%を90%に、卒業率76%を80%に 1年後の離職率16%に R6 1年からの進級率94%、卒業率90%に、1年後の離職率10%に）

#### **3. シチズンシップ教育でエンパワーする** [SDGs 貧困をなくそう] [SDGs 人や国の不平等をなくそう]

[SDGs 平和と公正をすべての人に]

○部落差別や野宿問題に起因する（西成差別）排除・子どもの貧困に象徴される貧困状態による差別・多様性（多文化・LGBT など）による社会的な排除さらに障がいのある生徒への排除など社会的課題につながる当事者が多数在籍している。そうした教室にいる仲間の理解を通して世界を把握することができるよう取組みを進める。【多様性が強みとなる学校運営】

○18歳選挙権（政治的教養を高める教育）を通じて、市民としての権利と責任を身に付ける。

※ 4「地域まるごと」エンパワーをめざし「地域課題を解決する」新科目「地域課題研究」を新たなエンパワメント TIME 科目として開発、実施する。

##### 【評価指標】

- ①学校教育自己診断における人権教育等への肯定感  
(R1 87.1%, R2 89.4%, R3 93.2%) R6目標→[90%以上維持]
- ②学校行事など生徒会活動への肯定感  
(R1 74.8%, R2 78.6%, R3 87.9%) R6目標→[90%以上維持]



#### 4. 「地域まるごと」エンパワーする [SDGs 住み続けられるまちづくりを]

- 「産業社会と人間」「エンパワーTIME」「総合的な探究の時間＝チャレンジ」の取組みをエンパワメント学習発表会で報告する。
- 地域防災の取組みを地元自治体とともに小中高の連携で行う。

【評価について】

- ※エンパワメント学習発表会実施時におけるアンケート（文章標記）による分析評価
- ※学校運営協議会での評価（協議員による参観とコメントによる分析評価）



#### 5. 運営改善で教員力もエンパワーする

- 「チーム学校」の取組み、先駆的に行ってきた西成高校として、「チーム西成高校」（SC,CC,SSW、カフェ事業、学校運営協議会）の積極的運営を行う。
- 分掌体制の改編を実施したのでその運用スタイルを構築する。
- 「働き方改革」の一環として9時35分授業開始45分授業を実現し、生徒のために働きやすい環境を作り出す。
- 「教職員連続学習講座」を引き続き実施し、幅広い教育者としてのスキル・見通し・マインド（センスと教養）を涵養する。

【評価指標】

- ①学校教育自己診断（教職員用）による評価  
教職員間で必要な調整打合わせが円滑におこなわれている ①63.2%（R02）→61.5%（R03）R06目標→75%

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>[生徒]</p> <p>1. エンパワメントスクールにきてよかった。肯定感 88.9%</p> <p>4. 授業はわかりやすい 肯定感 88.0%</p> <p>5. 教え方に工夫している先生が多い 肯定感 89.1%</p> <p>10. 産業社会と人間や総合的な探究の時間が進路選択に役立つ 肯定感 85.6%</p> <p>13. 高校に入学して、自分は成長したと実感している 肯定感 79.6%</p> <p>14. 人権や福祉について学ぶ機会がある 肯定感 91.8%</p> <p>19. 校内居場所カフェなど、生徒の居場所について学校は気にかけてくれる 肯定感 85.9%</p> <p>20. 校長先生の考えや話はわかりやすい 肯定感 82.1%</p> <p>21. 自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。一人一台端末を活用できている。 肯定感 90.5%</p> <p>※全体的に高い満足度・肯定的回答になっている。しかしながら2年の肯定的回答が他学年に比べて低い部分がある。(学校行事▼10票、学校の評価のしかた▼11~15票、自分は成長した▼12~19票、校長の話▼15票)</p> <p>[保護者]</p> <p>1. 子どもたちは学校に楽しく通っている。 肯定感 91.8%</p> <p>2. 学校の授業はわかりやすいようだ。 肯定感 94.5%</p> <p>6. 学校は子どもの努力やチカラを適切・公平に評価している 肯定感 91.8%</p> <p>7. 学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細やかにしている 肯定感 80.8%</p> <p>12. 学校は障がい者理解や人権の尊重などに関する意識を育てようとしている。 肯定感 91.8%</p> <p>20. 子どもが西成高校に入学してよかったと思う。 肯定感 90.4%</p> <p>21. 学校の「自立をめざす」教育方針や内容については理解している。 肯定感 98.6%</p> <p>※全体的に高い数値となった。特に「西成高校に入学してよかった」・「教育方針について理解している」の数値は特に高い数字になっている。しかしながら、保護者への案内方法を変えたため、今年度は回答数が昨年度に比べ少なくなりました。(259人から73人に減少) 次年度は回答方法について検討しなければならない。</p> <p>[教職員]</p> <p>4. 人権や防災、福祉についてしっかり取り組んでいる 肯定感 98.0%</p> <p>11. 体罰やセクハラ等の防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている。 肯定感 95.9%</p> <p>13. 学校行事が魅力あるものとなるよう、工夫を行っている。 肯定感 95.9%</p> <p>14. 教職員の適性や能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされている。 肯定感 59.2%</p> <p>15. 各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。 肯定感 91.8%</p> <p>19. 学校として教育全般にわたる評価を行い、次年度に活かしている。 肯定感 46.9%</p> <p>22. いじめが起こった際の体制がととのっている。 肯定感 95.9%</p> <p>24. 学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている。 肯定感 85.7%</p>	<p>第1回 学校運営協議会 令和4年6月19日（土曜日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和4年度学校経営計画について（重点的な取組みについて）</li> <li>○ 生徒現状について（学年からの報告）</li> <li>○ 「学校生活と人権アンケート」結果について報告分析 .....</li> <li>○ 始業時間1時間遅らせた件、定期考査をなくした件について、質問があり、次回の運営協議会まで（ステージ1終了時）に生徒の意見を聴取して、改革の成否について検討すること決めた。</li> <li>○ 学年の現状としては、遅刻数が増えたように思える。</li> <li>○ 遅刻件数は0件の生徒もおれば、20件の生徒もいる。どの層が増えたのかを精査して第2回以降の協議会で報告していきたい。</li> <li>○ タブレットの活用について次回以降に報告してくださいと要望があった。</li> <li>○ 小中高と地域連携でイメージアップをはかってはどうか？（提言）</li> <li>○ 生活と人権アンケートで本校の生徒の不登校経験率が分かった。49期生が一番多くて約40%。48期生、47期生はそれぞれ約30%。</li> </ul> <p>第2回 学校運営協議会 10月15日（土曜日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度の改革の進捗状況</li> <li>○ 地域協働キャリアセンター（学校経営推進費）について .....</li> <li>○ 始業時間の変更について改めて理由目的を説明。</li> </ul> <p>※ ① 経済的な理由で夜遅くまでアルバイトしている生徒の睡眠時間確保と学習への集中保障。 ② 教員の会議を朝0限めに設定し、放課後は生徒対応に時間を使えるようにする。 ③ 子育てをしている教員も1時間めからの授業が持てる。</p> <p>→ 生徒のフィードバックとしては、「朝の時間に余裕ができた」など多くの生徒が肯定的にとらえており、「バイトに入る時間がおそくなり、収入が減った」などの声もあった。 → 教員のフィードバック。「放課後に生徒対応できる」「子育てしながらでも働きやすい」などがあつた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 遅刻の状況について→遅刻総数としては、昨年度より増えているが、昨年度はコロナ感染症のために臨時休校が多かった。一日平均を比べると、減少していることが分かった。</li> <li>○ 定期考査の廃止について→考査そのものがなくなるとはいないが、日々の取組みを評価する方向へと変わったことで、ステージ1末（従来の1学期末）の成績において、欠点者の数が大幅に減少している。</li> <li>○ 地域協働キャリアセンター→本校の様々なキャリア支援、就労支援の取組みの総合的なセンターを作る構想。アルバイト支援、インターンシップ（2年生全員）、就職のための職場見学、卒業後の定着支援をつなぐトータルなキャリア支援のための部署を10月からスタートさせた。</li> </ul> <p>第3回 学校運営協議会 1月21日（土曜日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度令和4年度の学校運営のまとめ</li> <li>○ 令和6年度募集開始の「多様な教育実践校」について説明 .....</li> <li>○ 概ね改革初年度としては順調に推移している。ただし、学校教育自己診断アンケートにみられるように、2年生の学校教育全体に対する否定的な評価の割合が予想以上に多く、学校満足など重要な指標で数値の下落が見られた。しかし、本校がめざしている4人に3人の満足のレベルは十分にクリアしているため、学年特有の誤差化もしれないと考えている。次年度以降も今年度スタートの諸改革（校時、成績評価などについて）を堅持し、さらに全学年複数担任制を復活させることでより一層生徒の well-being を実現できるようにしたい。</li> </ul>

※昨年度に比べ、「各分掌や学年間連携が円滑」の項目が34 票も上昇した。また今年度からの質問事項である「いじめ」「行事」に関する項目も高い数値である。しかしながら19「学校として教育全般にわたる評価を行い、次年度に活かしている」の項目に関しては18.5 票の減となった。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
	<b>1. 学習力をエンパワーする</b>	① 習熟度クラス展開による学習の質の改善 ② 学習習慣の定着をめざす ③ 生徒の学力をキーとなるコンピテンシーを軸にとらえなおし、多面的な評価をおこなうよう研究する（そのことにより、授業を柔軟にするファシリテーションの実践的研究とする） ④ 到達度に対する評価ではなく、徹底した加点法による評価によるゴールフリー評価を実現する。	①学校教育自己診断「わかりやすい授業」の肯定感の維持[90.2%] ②学校教育自己診断「質問しやすい」の肯定感の維持 [82.1%] ③学校教育自己診断「評価納得感」の肯定感維持[90.4%] ④学校教育自己診断「評価の仕方や基準のあらかじめの明示」肯定感の維持 [90.9%]	①「わかりやすい授業」肯定感 88.0% (○) ②「先生に質問しやすい」肯定感 83.4% (◎) ③「評価納得感」肯定感 87.2% (○) ④「評価のしかたについてあらかじめ明示」肯定感 89.9% (○)
	「2年生ギャップ」に対する学びの改善  「学習評価」の方法を学校全体で改善に取り組む			
	<b>2. キャリア教育でエンパワーする</b>	① 地域の課題を解決する「地域課題研究」（学校設定科目）をエンパワメントタイムの授業として実践を開始し、本校学校文化を代表するコアカリキュラムに育てる。 ② インターンシップの充実 ③ キャリアパスポートの効率的活用を通じてキャリア意識を高める。 ④ アントレプレナーシップ教育を通じてモチベートする ⑤ 生徒を勇気づけるキャリアステージ計画	①② 新たに生徒による評価を実施する。肯定感 75%をめざす ※③については目標数値を設定せず、生徒の感想による評価を行う。  ④アントレプレナーシップ教育講演会を実施する（少なくとも年1回）  ⑤校内キャリアアップ 2年への進級（R3 86%）90%、卒業率 80%、1年後の離職率 16%をめざす。	①②「産業社会と人間」「チャレンジ」が役に立つ（進路キャリア学習に対する肯定感）肯定感 85.6% (◎) ③十分に活用できていない (△) ④7月に「西成から靴を通じて世界を照らす」というタイトルで講演を行った。（株式会社ロカシュー 大山一哲様） ⑤2年への進級率 79.3% (△) 1年後の離職率 24% (△)
	○ロードマップによる計画的なキャリア教育の推進  ○社会人基礎力の育成			
	<b>3. シチズンシップ教育でエンパワーする</b>	① 仲間作りを促進し、相互の理解を増すことで相互の信頼関係を高める。また教員とも信頼できる「環境」を作る  ② カフェ事業を引き続き拡充し、生徒支援を重層的に実施する  ③ 人権・福祉についてなど社会について多面的に学び、市民としての権利と責任を身につける。（特にジェンダー、ハラスメントなどの問題も取組む）	①学校教育自己診断における「悩み事や相談事に関する質問項目」についての肯定感を維持。[85.8%]  ②「居場所について学校は気にかけてくれている」の肯定感を維持。 [90.0%] ③「人権・福祉の学習」への自己診断アンケートへの肯定感の維持。 [93.2%]	① 悩み事や相談事を親身になって応じてくれる先生がいる。肯定感 85.1% (○) いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる 肯定感 83.7 % (新規 ○) ②「居場所について学校は気にかけてくれる」肯定感 85.9% (○) ③「人権や福祉について学ぶ機会がある」肯定感 91.8% (○)
	○地域協働の取組みを進める  ○子どもの権利条約にもつづく市民教育をすすめる			
	<b>4. 「地域まるごと」エンパワーする</b>	① 「地域課題研究」の実現（子どもの貧困、若者と労働、部落差別、野宿、隔離と迫害など）←産業社会と人間、総合的な探究の時間、エンパワメントのカリキュラムを再編する ② エンパワメント学習発表会の実施 ③ 地元区役所（西成区・住之江区など）との地域協働の連携を通じて、在校生・卒業生の活躍の場所を探る	①エンパワメント演習で一部先取りをおこなう予定。生徒感想によるフィードバック（1年生の産業社会と人間が進路に役立つなどの肯定感）75%以上 [83.3%] ※②数値による評価指標を設けず、アンケートによるフィードバック。（肯定的な感想など） ※③数値による評価仕様を設けず、エピソードやストーリーによる評価を明示する。	① 1年生の「産業社会と人間の授業が役に立つ」肯定感 89.6% (◎)  ② 令和5年3月9日 実施予定 ③ 取組めず (△) 地域協働の取組みの枠組みの決定が遅れ、取り組むことができなかった。
	○西成の地域課題に学ぶ ○地元企業への学校説明会  ○地元行政との連携			
	<b>5. 運営改善で教員力もエンパワーする</b>	① 各種会議の目的・位置づけを引き続き明確にするなど運営方法の研究や意思相通の方法を開発し、効率的な仕事文化を育む→西成高校ハンドブックによる職員研修 ② ICT を活用した連絡調整方法の習熟 ③ 始業後1時間にすべての会議を集約することで、授業後の時間を生徒への指導支援（部活動等）に集中できる。また子育て世代の職員の働き方改革にも資する。	①ハンドブックによる研修の実施  ②③学校教育自己診断による教職員によるフィードバック 肯定感 60%以上	①4月実施済み  ②学校教育自己診断「各分掌や学年の連携が円滑に行われている」肯定感 91.8% (◎) ③ 学校教育自己診断「生徒の支援や指導について家庭との密接な連携ができています」肯定感 91.8% 「学年会議で生徒情報に関する円滑な情報共有ができています」肯定感 91.8%
	○機動的・機能的な学校組織の確立 ○働き方改革を実現するための職員室デザイン			